マトグロッソ特輯

無限の富を藏する大マトグロッソ州

位置。最北端はアマゾナス大河の一支流タパジョース河の上流ジュレナ河とサンマノエル河の合流點、南緯七度二一分より二一九一碁米突南してパラナ河のセッテ・ケーダ瀑布第五段目の所、南緯二四度三分四一秒の點を最南端となす、東西はアラグアヤ河のバナナル島がリオ・デ・ジャネイロを西に距ること六度四二分より二一度一三分一五秒の西端である。

境界。パラナ河のセッテ・ケーダ瀑布を出發點として、マラカジュ山脈、アマンバイ山脈等の分水嶺に沿ふてパラグワキ河に出で、遡つて南緯二〇度九分一七四九碁米突、マディイラ河とマモレ河の合流點がリオ・デ・ジャネイロより二二

マ州統領ドツトル・アンニバル・トレド氏

づ、ジュレナ河を下つてサンマノエル河の合流點にてパラ州境に入りサンマノエル河を遡つて南緯九度半位の所を横ぎつてアラグワヤ河のバナナル島に達す、此の河はゴヤス州境を爲し一支流カイアポー・グランデ河の水源に達し、カイアポー山脈を超えてアポレー河の上流に出で、下つてリオ・グランデに合し僅かにミナス・ゼラエス州と境してパラナ河となり、サンパウロ州とはパラナパネマ河まで隣してパラナ州に入り、セッテケーダ瀑布の出發點に歸着する。

シルバア・コウチーニオ博士の計算に依れば廣芽質に百五十萬平方キロメートルで、英佛獨伊の四國合計の面積である。

河川は南下してラプラタ河に注ぐ、パラグワ井、パラナの二大河と北流してアマゾナス河に注ぐものにマディイラ、マモレー・ジュレナ、サンマノエル、シングー・アラグワキア等の諸大河ある。

山脈は南部にマラカジュー、アマンバイ等がパラグワ井國境を爲し、北走してヴアカリア・シヤッバドン等の高原地帶を爲す東部にサンゼロニモ、ピエダーデ等の山脈があつて、中央部はセーラアズール、ダニエル・ジヤンカラー山脈、西部にはサンタ・バルバラ、パレシスの諸山脈、北部にはノルテ・モレナ、グロン・パラー、ホルモーザ、ロンカドールの諸山脈あれ共、何れも六、七百米突以上の高所が少ない。

氣候。氣候は概して暑氣甚だしけれ共南部高原地帶は温暖にして南三州の氣候に似てゐる、風土病と稱すべき特種の惡疾なく土地に馴れた者は高齢者多く、最近の發表に依ると百歳以上の老人が八人で、百四十六歳と云ふ爺さんもゐる、それが州内全人口三十五萬人に比較して見れば珍らしい事である、此の如く人口の稀薄な事も伯國一で四・三平方基米突に一人の割である。

首府。クヤバ市は州の稍中央にあり、パラグワ井河の上流クヤバ河岸にある河港で、三百噸位の河蒸汽船が出入する、コルンバ港はパラグワキ河港中最も古く且つ繁華な貿易港で、プエノス・アイレスまで一週間、クヤバまで五日で行ける、此の港には一千噸級の貨・客船がモンテビデオ方面へ往復してゐる。

カンポグランデ市は南部麻州の中心地にして政治上も殆んど南麻州の總督地である、トレスラゴア町はノロエステ鐵道麻州側の起點で鐵道工廠があるが、産業は餘り振はぬ、ミランダ、アキダワナ等も古い町だが充分開けてゐない、南部パラグワキ國境のポンタポラン市はマテ茶産出の中心地として近來頓に活氣づいてゐる、クヤバの西にサンルイス・デ・カーセス町があるポリビア州境マモレ河上流にはポリビア州境マモレ河上流にはポリビア州境マモレ河上流には舊首都マットグロッソ町がある此の附近は金産地として有名である、マディイラマモレ鐵道の沿線は自然ゴム盛況時代の遺跡に過ぎぬらしい、州の大半をなすデアマンチナ以北は未だ全く未知の世界と云つて可い、量り知れぬ天與の富源を藏しながら原始のまゝ現代から遠ざかつてゐる、デアマンチーナは名の如く金剛石の産地であつたが、今では藥草イペカクワンニヤの採集地として榮えてゐる、此の草根からアメーバ赤痢に良く利くエメチーナを採るので、一キロの乾根が四十ミルもする相だ。

交通。交通はパラグワキ河が河床深き爲めサンロレンソ、クヤバ等の支流まで河蒸汽船が通ひ餘他の小流もカノアやランシヤで交通運搬の要路に當つてゐるコルンバ港以下は相當の沿海航路船が上つて來る、ロイド・ブラジレイロ會社のは一千噸位ひの貨、客船が出入してコルンバ・エスペランサ、ムルチーニヨ等の諸港で輸出入品の積み換えをして旅客を送迎してゐる鐵道は聖州バウルーを起點とするノロエスタ・ド・ブラジル鐵道がボルト・エスペランサまで達してゐる、北部のマディイラマモレ鐵道と共に州内鐵道の存在を示してゐる、自動車道は橋梁の完備と共に各都市を連結してはゐるが甚だ粗末で、不充分なるは人口の割合から見て仕方のない現狀である。

産業。産業は、牧畜を以て代表してゐる。

牧畜。廣芽數百萬エクタールレスの自然牧場は幾千萬の牛馬を育みつゝある、放牧の肉用牛は州經濟の原動力で、其の他の農業は殆んど自家用にも充たぬ程度じある、次に材木は各河岸に豐富で、アルゼンチン・パラグワキ方面に輸出される、南部のマテ茶（エルバ・マテ）は麻州産特別製法にて、パラナマテ茶に比較して數等高級品で市價も高く、パラグワ井、アルゼンチン等に多く輸出され、今では畜産に次ぐ重要な産業となつてゐる、甘蔗は氣温の關係で非常に適してゐる、ビンガー製造や製糖も相當に盛んである。

鑛業。鑛業は金鑛、鐵鑛、マンガン鑛、石英等で、金剛石の産出も亦有名である

Marcenaria e Constructores
NAKAMURA & HARA
Aquidauana —— E. de Matto Grosso
家具製造販賣
建築請負
家具商 中村勝盛
原源之助
麻州アキダワナ町

内外品雜貨商
緒方商店
緒方喜熊
麻州トレス・ラゴーアス町

ピンガ製造所
比嘉松助
麻州アキダワナ町カンピナス植民地

Pharmacia Central
DE
NAKAYAMA & CIA.
Aquidauana —— E. de Matto Grosso
內外藥品並に治療器具
中央藥局
中山亨
麻州アキダワナ町

ピンガ製造所
玉城川之前共營
麻州アキダワナ驛カンピナス植民地

ピンガ仲買
貸自動車
大見謝孝辰
麻州アキダワナ町

Casa Yonekura
Armazem de Seccos e Molhados
Torrefação de Café
Tres Lagôas = E. de Matto Grosso
カフェー製粉
內外雜貨
米倉商店
米倉初三郎
麻州トレス・ラゴアス町

FABRICA DE AGUARDENTE
DA CANNA
Campo Grande = E. de M. Grosso
ピンガ製造所
與那覇德
麻州カムポ・グランデ

Photographia Yago
Aquiduana —— E. de Matto Grosso
矢合寫眞館
矢合文也
麻州アキダワナ町

Off. de Carpintaria
e Marcenaria
DE
Yotoji Shinta
Est. Miranda —— E. Matto Grosso
建築請負業、家具製造
新田與藤次
麻州ミランダ町

マトグロッソ州

邦人發展經路

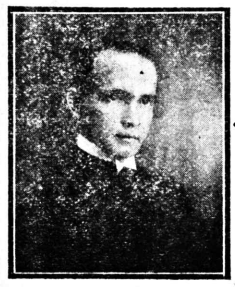
麻州邦人の第一着は一九一〇年に、今イタケラに居る本社の農事部員である石橋恒四郎氏が政府の囑託として蓄産の中心地たるカンポグランデに赴任して來たのと頃を同じふして、ペルー流れの沖縄縣人大城辛喜氏等がアルゼンチンからパラグワキ河を遡つてボルトエスペランサに上陸し、たま〳〵工事中であつたノロエステ鐵道の工夫となり大城氏は人夫募集の爲め水路ラプラタ河を下つてサントスに至り同志を募り、沖縄縣人鹿兒島縣人等四十餘名を引き具してボルトエスペランサから工事場に着かせた亦一方アラサツーバよりバラナ河岸に延長した本線の工事はトレスラゴアス驛を根據として、濺々たる麻州の大平原に二條のレールを敷いて行つたが、盛んな時は七　八十人も働いてゐた。

越えて一九一二年頃には愈々鐵道工事も完成に近く、トレス・ラゴアスとボルト・エスペランサの兩端から始められた工事はカンポグランデを去る五十二キロの點で出會つたのでリガソンの名があるカンポグランデは斯くて鐵道の中心ともなり、氣候温和と高燥地の利を占めて、商業、交通、産業の中心地として年次發展の兆を呈したので、邦人中には逸早く、同地方の開發に目を着け工夫を止めて土地に落着を見せる者が顯れた、山城興昌、太田興孝、知念松、新川善助、太田德の諸氏は、カンポグランデ市郊外の低地を借りて野菜園を經營し出した、石橋ドクトルの如きも一時太田氏等と共同で驛前にあつた現市長コロネル・アンテロ氏のシャカラに菜根の栽植をやつたと云ふ事だ。トレス・ラゴアスの佐賀縣人山口官吉氏、現在雜貨商の米倉初三郎氏、野中兼次郎氏等も土地を求めて野菜を主とする雜作農業を始めてゐた、アキダワナ・ミランダ等に落ち着いた邦人も多數であつた。

商業方面に先鞭をつけたものには太田德氏、山城興昌氏等があつて、山城氏は市内にボテキンを始め、太田氏の如きは共同者と洗濯業を始めたが、新開町の鼻息の荒い連中だけに一打の洗濯料八ミル位で、面白い程儲かつた相だ、野菜等も隨分高かく賣れたと云ふのが、日本人が作らねばカルチセツカとフエジョンよりない彼等の生活であつたからだ。

石橋氏は更にホテル・アベニーダを經營してゐたが、三ケ年位でカ市を去つて再び歸らなかつた、一九一五年にカ市から六キロ米突離れたマート・セグレッドといふ地を卜して、沖縄縣人仲尾善永、同權四郎、源河幸吉兄弟、仲程仙五郎の諸氏が土地を求めて入植し、カンナ、マンヂオカ、ミーリョ、フエジョン等の雜作を成して相當の成績を擧げた、牧牛より他にないと思はれた麻州農界に、小農の栽培耕耘が可能なことを立證した功績は誰れもが認めねばならなかつた。斯くて南麻州に於ける邦人は鐵道沿線各驛町に集つて來た、固より鐵道工事の常置ツルマ（工夫組）に勤續する者も少なからぬ數で、中には工夫長になり、大工頭になり、機關手にもなつた者もあつた、現に廿年近くも鐵道工夫で通して四、五十コントスの貯蓄をしてゐる者もある相だ。

次は職工から町に轉じて建築請負や、指物師として器用に働いて産をなしてる者もゐる、一九二〇年から二五年頃は全盛期とも思はれる位で、カンポグランデの如き堂々たる商店を經營して諸外人の間に伍して行けるやうになつた。



カ市親日家ドクトル・ヤイヤイ氏

「上」カ市々長コロネル・アンテロ氏と「下」同市十四・デ・ジユーリヨ街

最近サンパウロ州ノロエステ方面の珈琲熱にうかされて大分移動した者もあつて、幾分の退歩狀態を示したが、永年腰を据えて辛棒した人達は商業や、農業や、將た建築請負や指物業で堂々門戸を張つて各地に邦人の爲め氣を吐いてゐるし、勤勉な邦人の違り口も漸く認められ重要なる存在として何に彼にと引合ひに出されてゐる、麻州在住邦人總數二千人を下らず、首府クヤバ以南パラグワキ境までに散在してゐる、其の内でも一番多數集まつてゐるのがカンポ・グランデ管内の一千三百人で三分の二を占めてゐるのが注目に値ひする。

發達の初期にあるカンポグランデ市

起原。カンポ・グランデ市の開發は極めて最近の事に屬する、一世紀前までの文明は、水運にのみ從つて擴がつたものであることは史實の示す通りである、麻州内都の草原に水に緣りもなく存在したカンポグランデ村が麻州の首都に擬せられつゝある

今日の隆盛を來したのは全くノロエステ鐵道開通以後の目覺しき發展振りに據んもので、一九二〇年頃の鐵道工事時代には戶數僅かに百に滿たず人口千二百と記錄に殘つてゐる、幸運に惠まれてゐたコルンバーやクヤバの百五十年以上の歷史に較べて全くの新開地と云はねばならぬ、だが同市は、鐵道の開通に依り南麻州の中心地であり、サンパウロやサントスへ直通の便を得て、廣大なる農牧國の首都として集まり住む者に喜こばれる温和な氣候である事だ。

平均温度二四度、最高二九度止りで、零下に下る事も冬期には珍らしくない、それはパラグワキ及びバラナの二大河を分つてマラカジユー、シャッバドンの縱走山脈中七三五メートルの標高を持つてゐる點でも首肯かれる事だ、數年前コルンバーにあつたマトグロッソ師團司令部がカ市に移轉してから、各科の兵營及び附屬の諸建築がセグレード川の對岸に出來てから、是等の軍屬家族の來住で亦一段の繁榮を來した。

現在人口二萬五千餘、州内第二の都市で、州農務監督局や州副警視廳……南麻州總督的地位にある……

三頁へ續く……

仲尾氏の珈琲園

Casa Guarany
A. GORGE CIA.
Fazendas, Louças e Calçados
Campo Grande — E. de M. Grosso

反物、帽子、玩具
小間物、陶器、靴各種
カーザ・ガラニイ
アルツール・ジヨルジ
ジヨアン・赤嶺　共營
カンポ・グランデ市
郵函八七

DENTISTA
S. GUIHO
Campo Grande — Matto Grosso

齒科醫
宜保三郎
麻州カンポ・グランデ市
アントニオ・マリア・コエリヨ街

AUTO ALUGUEL No. 60
Higa Kamasuke
Campo Grande — Matto Grosso

麻州御視察の方は最も
地方の地理に精通せる
貸自動車　六〇號
比賀蒲助
麻州カンポ・グランデ市
駐車場　大城商店

FABRICA DE AGUARDENTE DA CANNA
OTTA & OSHIRO
Campo Grande

珈琲園、ピンガ製造所
太田德　共營
大城乙之助
麻州カンポ・グランデ
マツト・セグレード植民地

FABRICA DE AGUARDENTE DA CANNA
"CAMPOGRANDENSE"
ADANIYA KAME
Campo Grande — — Matto Grosso

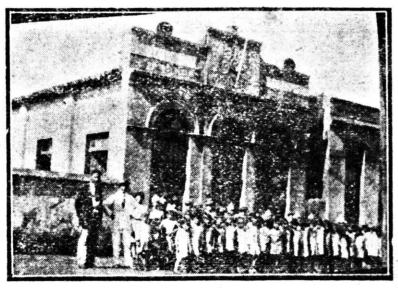
珈琲園
ピンガ製造所
安谷屋龜
麻州カンポグランデ
マツト
セグレード植民地

Machina de Beneficiar
ARAOZ E CAFE'
FABRICA DE AGUARDENTE DA CANNA
NAKAO & CIA.
Campo Grande — Matto Grosso

精米
珈琲精撰所
ピンガ製造
仲尾農場
仲尾權四郎
仲尾善永
麻州カンポ・グランデ市
農場
マツト・セグレッド
植民地

……二頁より續く……

る、市長等の要路の官憲あり、一九二九年度の行政報告書を見れば市の諸税收入總額一・二一一〇コントス餘、支出同上とありカンポグランデ驛の收入總額三四七五コントス百ミルレースと記るされてゐる、市の最も力を盡してゐるのは市街の舗裝施設で、一昨年の十一月市當局とリオの工事會社フイルモ・ゾトラ商會の間に工事契約成り、四千コストス近くの經費を出す事になつて、凝礫舗道式のアスファルトを殆ど全市街に敷きつゝある、市公園も改造中で水道及電氣もあるが、市の俄な膨脹に不足を感じてゐる、學校はジナジオ・ムニシパール最も完全にして二百八十八名の生徒を收容してゐる、カトリコ附屬のコレジオや、グルポエスコーラや、其の他に十四、五の私立學校がある、邦人經營の小學校もある、カンポグランデの次の驛テレーノスに市營の植民地がある、伯國人の外に獨逸人が多いさうだ三百七十五家族で市當局に九十二コントス餘の借金が殘つてゐる、市長の言でも麻州の植民地を只與えた上に、一年や、半年の經費まで貸しても猶ほ成績が擧らぬと云つてゐる點など日本人に考へさしてもらひ度いものだ、此の外市の權限内にある無償拂下げの土地はリオパルドに八千ヘクターレス、セルビーニョに一萬五千ヘクターレス及びジャグワリイに六ヘクターレス宛に區切つたのが五十區許りある相だ、是等の土地は牧畜の外米、豆、黍、カンナ等の雜作に適し、珈琲の植はる所もあるとのことで、牛の輸出數は昨年度十萬頭に上つてゐる、自動車數二百臺、カローサ二百九十六臺位ひ現在あるとのこと。



カンポ市日本人小學校

目ざましい邦人の發展

カンポグランデの邦人の草分けは矢張り石橋、大城氏等で既に廿年を越えてゐる、石橋氏等の周旋でシヤカラを借り野菜園を始めたのが十六、七年前からで此の野菜園は今日に至るも猶ほカ市の蔬菜園として、凡そ八十餘の野菜業者が養豚牢分に良い成績を擧げてゐる、己に儲かつて市内に家を買つたり、植民地に入つて珈琲やカンナで儲けてゐる人もある、市内の有力なる邦人では仲尾權四郎氏が珈琲や米の精選機を据え、マットセグレードに六十餘ヘクターレスの土地に三萬の珈琲成樹と十七、八ヘクターレスのカンナ園を有つてゐる、ピンガ製造所よりは年額四萬リットル、九十コントスの收入がある外、去年の珈琲三千俵は八十ミルでは安いからとて倉庫の中に寢せてある位有福な人で、是れは兄の善永氏と共同である、源河幸吉氏兄弟は從來仲尾氏と共同で農園もマキナも經營してゐたが今年に入つて全部仲尾氏に讓り、一方經營し來つた藥店ロイアル本店、イデアル支店の經營に從事せしが最近ロイアル本店も外人に賣つて家丈け貸してある、其の他マートセローラ植民地には大城武盛氏等と十萬本珈琲栽培の計畫中で既に入植者もある、市内に數戸の貸家も持つて、仲尾氏と共にカ市邦人の兩大關である、イデアル藥店は宮城重吉郎氏と共同で經營してゐる、野菜作りから仕上げた人に現日本人會長宮平市榮氏がある、驛の近くでホテル・エスタソンを經營して建物全部氏の所有だから樂なものだ、此の外に王城眞吾氏の經營するホテル・アリアンサも玉城氏の所有で大きな建物である、雜貨商として最も手廣くやつてゐるのは球陽協會支部長の大城武盛氏の店で、氏は此の他にマットセローラ植民地に二箇所に珈琲栽培をやつてゐる、未だ若手で鋼々たる人だ、前日本人會長で熊本縣八代郡の人片山日吉氏の寫眞館は市の大通りの中央にある、親切な經營振りと市の繁榮とにつれて内外人間に信用を博して隆盛である、其の他雜貨店としては、宮里、大城、津波古、久場川、石川氏等の諸店も殆んど市内目拔きの本通りにある、愉快なのはジナジオ・ムニシパルを卒業したジユオン・赤嶺德助君で、未だ廿四、五の青年ではあるが、カーザガラニイと云ふ堂々たる呉服其の他の商品山積の店を、市内有力の醫師ドットル・ジオルジ氏と共營で敏腕を揮ひ内外人間から認められてゐる其の他、新垣、渡慶志共營の指物工場、洗濯屋二軒、理髮店が八、九軒ある、伯國で勉强した齒科醫宜保三郎氏は本職の外繪も描けば文も物する風流人として聞こえてゐる茲に特筆すべきはカンポグランデ日本人會の經營に成る、邦人小學校エスコーラ・ピスコンデカイルーの存在である、これは一九一九年の創立で、校舍と廣き運動場とを有し、現在生徒數八十五名で、伯人兒童十餘人をも收容してゐる、日本人として山城興昌氏校長の下に伯人の男女教師各一名宛屬つてゐる、市より月額二百ミルの補助も得て何事も伯人學校と差別なく認められてゐる、日本語も伯語で解釋してゐる所など趣が異ふ、本年は州統領ドットル・アンコバル氏も來訪して極めて賞讃の記錄を殘されてゐる。また同地には三臺の邦人貸自動車があつて親切にして與れるので、旅行者には誠に便利である

沖縄縣人幹部連

カンポグランデ管内邦人植民地

マットセグレード植民地　カンポ・グランデの邦人中耕耘の集り外知らなかつた麻州人に、集約的耕耘農業の利益あるを知らしめ且つ米、豆の日用食品まで他州から仰いでゐた州人に自給の可能なるを覺らしめた。現在約農業に目をつけて落着きの場所を求めた人々は、市の北郊七八キロメートルのマットセグレードと云ふ所にテーラロッシヤの極めて肥沃な森林地帶を選んで入植した源河要吉、源河幸吉、仲尾善永、仲尾權四郎、仲程仙五郎の諸氏で十四、五年前茲に居を定め米、豆、黍カンナ等を栽培し、放牧のみの粗笨農業より外知らなかつた麻州人に、集約的耕耘農業の利益あるを知らしめ且つ米、豆の日用食品まで他州から仰いでゐた州人に自給の可能なるを覺らしめた。現在では十三家族の沖縄縣人が三百五十ヘクターレスの土地を所有し、珈琲及びカンナを主作物とし、珈琲約十萬三千五百本、カンナ園約五十ヘクターレス位ひ

……四頁へ續く……

家具製造所
新垣松雄
麻州カンポ・グランデ市

理髮業
知念五郎
麻州アキダワナ町

理髮業
金城福三郎
麻州カンポ・グランデ市

理髮業
サロン・セントラル
當間清平
麻州カンポ・グランデ市

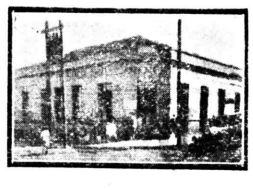
内外品雜貨商
古堅商店
古堅宗吉
麻州カンポ・グランデ市

理髮業
比嘉吉永
麻州カンポ・グランデ市

内外品雜貨商
大城商店
大城亀
カンポ・グランデ市
(ホテル・アリアンサ内)

内外品雜貨商
宮里商店
宮里清七郎
カンポ・グランデ市マットグロッソ街

Pharmacia Ideal
GUENKA & MIYASHIRO
Teleph. 109 = Caixa Postal, 16 = Campo Grande = Matto Grosso



マット・グロッソ州
カンポ・グランデ市
電話　一〇九番
郵函　⑯一六番

内外藥品、治療器具
ゴム製品、化粧品
イデアル藥店
源河幸吉
宮城重吉郎　共營

CASA OSHIRO
OSHIRO & IRMÃO
Rua D. Aquino, 9 —— Campo Grande
Matto Grosso

内外品雜貨商
エルブア・マテ茶
特約販賣店
大城商店
大城武盛
大城辰雄
麻州カンポ・グランデ市
ドン・アキノ街九番

……三頁より續く……

で成績甚だ良好だが、勸業部の北村氏視察の際モザイク病ありと見て注意されたと云ふから、これは等閑に附してはなるまい

仲尾、安谷屋、太田、大城の諸氏はビンガ製造を相當大規模に經營しつつある、年產三萬乃至五萬リットルの優良製品を市場に供給しつゝあると云ふ、珈琲も七、八年前より栽培を始め、種類としては揃つて良いものとも思はれぬが、發育の狀態は聖州の珈琲に劣らぬものがある、耐地には植民地同志會あり、現會長安谷屋龜氏、副會長に平良龜助氏が坐はり他の役員諸氏と活動しつゝある。

マットセローラの邦人植民地

カンポ・グランデ市から十五六キロの所にマットセローラ植民地がある、此處はマットセグレードより新しく、七、八年前より入植を見、近年珈琲界の好況に連れて珈琲栽培を始めたもので、大抵三、四年以下の幼樹ばかりで、十五六家族の地主である、地味はマサペープレータの肥沃な地帶で、岩盤が近いやうだ、米、黍、馬鈴薯等の間作にも適してゐる、此處二、三年したら立派な珈琲園になるだらう

首都クヤバ市の一部

此の近くに發電所がある、球陽協會カ市支部長で市內に雜貨商を營む大城武盛氏の外、又吉次の助、山里中常の諸氏が有力者である、此の植民地の分家とも云ふべきアニューマス植民地は此處一、二年前から始められたもので、之れより十五、六キロ奥にある、佐藤清義、源河兄弟、大城兄弟等の諸氏が盛んに珈琲の新植をやつてゐる。

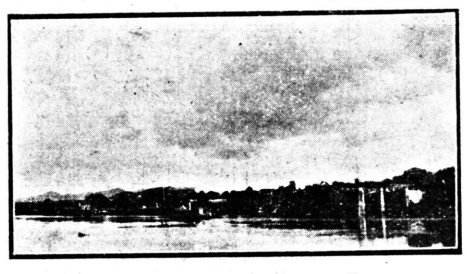
一體麻州に於ける珈琲栽培は頗る少許かりで幼稚なるものであつたが、聖州珈琲の盛況に刺激され二、三の珈琲園經營者が現れた程度で、到底自州消費量の一匙にも上らなかつたまま放擲されてあつた處、カ市附近殊にマットセグレードの珈琲成績を見た州官邊では、其の成績の意想外に優良なるを認めて、新政府になつてから十萬本新植者に對し五十コントスの奬勵金を與へる事になつた、亦新聞紙上を通じて麻州にも珈琲適地少なからざる事を宣傳するを見るに至つた、事實種類の改良と精選に意を用ゆる時は、聖州にも劣らぬ成績を擧げ得られる所で、テーラロッシャや、マサペープレータは聖州北部の珈琲地帶に似てゐる。

野菜業者の群

カ市を包む郊外に九十家族以上の野菜業者がゐる、毎朝市內に賣り歩く外、日曜、木曜の二回は市內に市場（フエーラ）が開かれるので、日本人は此處に野菜を持出し賣つてゐるが獨占の形だ、それに市內の殘滓物や、屠牛場の廢物を集めて歸つて甘藷はマンヂオカと混炊して盛んに豚の肥育をやつてゐる、これは沖縄の人達の得意とする所で年收十コントス內外は上げてゐるとのことだ、尙ほその他に米作を主とする借地農の邦人も多數にゐる。

州の行政

麻州は元來サンピセンテのカピタニア領（サンパウロ）時代縣會が置かれてあつたが、聯邦政府の許に一州を形成して首府をマット・グロッソよりクヤバに移した、州議會は一院制で二十四人の衆議院議員を全州から選擧して州政に參加せしめ、議員の任期は三年である、州統領及び副統領三人を選出して其の下に二長官が政務を分擔し、任期は四ケ年である。



パラグワキ河の伯國海軍要港ポルト、ラダリオ

二長官の任務は一つは內務兼司法及び大藏長官で、他は農商工務、交通逓信の兼官である。

現州統領は本年一月就任の前麻州選出聯邦下院議員であるドットル・アンニバル・トレード氏でミランダ出身である。

全州は二十三郡に分けてある、インテンデンテ・ゼラールと云ふと郡長（市長兼）よりも、知事のやうな氣がする、郡會の參事會員も議員と同じく四年の任期で選擧されてゐる。

麻州はボ、バ兩國境で、國際上重要な所として、軍事上の設備には聯邦政府が力を盡してゐる

カンポ・グランデに師團本部あり、各郡市に駐屯兵がゐる、パラグワキ河は國防線として聯邦海軍の管轄下にあつてクルンバの近くにある、ラダリオ港は軍港である。

麻州植民の起原

マト・グロッソ州へ最初の外來者を迎えた年代は明かでないが葡人アレイショ・ガルシヤ父子が一五二六年頃サンパウロのカピタニアを出發して、麻州中原に足跡を殘してゐるのを嚆矢とするらしい、其の後一五三七年にジョアン・アイヨラスと云ふ者が所謂バンデイランテスの一隊三百餘人を率いて、パラナ河の一支流を遡つてシャバドンを越えタクワリー河を下航し、パラグワキ河を遡航してクヤバ地方からマット・グロッソ（町）方面に至り、露出金の在所を逐ふて遠くアンデス山麓まで迫つた記錄がある、其の後ラプラタ河を遡上してパラグワキ河に入り、コルンバー、クヤバ方面に入つて來たバイオニアが隨分あつた、殊に其の頃葡人と並んで世界的に海上王の名をなした和蘭人もいち早くラプラタの水運に目をつけて遡航し、遂にヂアマンチーノや、マト・グロッソの寶庫の鍵を收めてゐた、此處の土人インデオはグワラニー族か南部コロアード族及び其他が北方にのがれ、馴化も早やくて此等の外來者と交つたらしい、此の間例に依つて宣教師の馴化事業も活躍したらしく、有名なゼチラル・ロンドン氏の如きはアキダワナ地方のインヂオの生れだと自ら稱してゐる。

首府クヤバの起原

一七一九年四月八日にパスコアル・セレイラ・カブラルの仲間の一人が麻州金鑛の管理者てふ役目で、時の攝政廳から遣はされて、クヤバの地に駐在したのが政治的クヤバの誕生の日である、其の後サンパウロのカピタニア本部で一七二七年一月一日にロドリーゲス・セザル・デ・メネゼスは執政官として三千人を從へてクヤバの地に來任しピラ・クヤバを形成して、マ州一圓を治めた、一七四八年五月九日に是れまでサンパウロのカピタニアに屬してゐたのを獨立させてマト・グロッソのカピタニアを成し、最初の執政官ドン・アントニオ・ロリン・デ・モウラ・メネレスであつた、一八二五年九月十日には葡國の羈絆を離れて伯國獨立に連れ立ち、後に共和聯邦の一州となり、最初の州統領にジョゼー・コスタ・ペレイラ氏を擧げたのである。

Armazem Japão
Campo Grande —— Matto Grosso
內外品雜貨商
アルマゼン
ジヤポン
津波古南成
麻州カンポ・グランデ市
郵函一〇九

HOTEL ESTAÇÃO
MIYAHIRA ICHEI
Mais Perto da Estação Campo Grande —— Matto Grosso
ホテルエスタソン
館主　宮平市榮
市デンラグ・ボンカ州ソツログ・トツマ
ルテホい近番一に驛

Auto Aluguel
"No. 30"
Campo Grande —— Matto Grosso
御視察用自動車の
御用命は
三〇號を
晝夜に不拘御招きに應ず
源河豐正
麻州カンポ・グランデ市
駐車場イデアル藥店

PHOTOGRAPHIA
KATAYAMA
Hiyoshi Katayama
Rua 14 de Julho, 51　Campo Grande
E. de Matto Grosso
寫眞器械
材料各種
引伸着色
出張撮影
片山寫眞館
館主　片山日吉
麻州
カンポ・グランデ市

HOTEL ALLiANÇA
TAMAGUSKU SHINGO
Av. Calogeras, Esq. de A. Maria Coelho = Campo Grande = Matto Grosso
サンアリア・ルテホ
館主　吾眞城玉
市デンラグ・ボンカ州麻
角の街オリエコ・アリマと街スラゼロカ